

2016年7月1日から2017年12月31日の期間にもの忘れ外来にて
アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、正常範囲内
のいずれかに診断された患者さまへ

研究の概要について

日本は超高齢化社会を迎え、85歳以上の方のうち約3人に1人は認知症というほど、認知症はありふれた病気です。認知症のうち、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症が代表的であり、それぞれ症状の特徴や生活上での困りごとさまざまです。認知症が適時に適切に評価されることはご本人、ご家族の生活を支えていくこととなります。認知症の診断や重症度の判別においては認知機能の評価は非常に重要であり、神経心理学検査を用いて評価します。そのうちのひとつに図形を模写する検査があります。これは、認知症のスクリーニングに多く用いられており、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症の診断に有効です。そこで、模写された図形の正誤だけでなく、どのような誤りがみられたのか詳細に検討することで、認知症における疾患別の構成機能の傾向を明らかにすることを目的としています。

研究課題名「初期認知症における模写課題の誤りの質的検討—アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、正常範囲内の比較をとおして—」

研究期間 倫理委員会承認日から2018年10月31日まで

研究責任者：古田 光

研究実施責任者：今村 陽子

研究の方法について

もの忘れ外来を受診された患者様の基本的背景（年齢、性別、教育年数）、認知機能検査（改訂長谷川式簡易知能評価スケール：HDS-R、MMSE：Mini Mental State Examination：MMSE、時計描画テスト：CDT、透視立方体模写）、画像検査等のデータを集積させていただきます。医師の診察でアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、正常範囲内のいずれかの診断を受けた方々につきまして、模写図形を認知機能検査実施者2名以上が誤りの質を分類、評価し、誤りの出現頻度について比較します。

資料の保管 他研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、患者さんの個人情報 が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定 はできないようにしております。他研究への利用はありません。なお、この研究に使用されたデータは本研究終了後に廃棄いたします。対象となることを希望されない患者さん、ご家族さまは以下までご連絡ください。

問い合わせ先

〒173-0015

東京都板橋区栄町 35-2

東京都健康長寿医療センター 精神科 今村陽子

03-3964-1141（内線 5136）